

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したので送付します。

平成26年度病害虫発生予報第5号

平成26年7月31日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)、穂いもち(極早生種、早生種)	—	多
	紋枯病	—	やや少
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	やや少
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	少
	トビイロウンカ	並	並
	イチモンジセセリ	—	やや少
	コブノメイガ	—	やや少
カメムシ類	—	やや多	
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	並	並
モモ	モモハモグリガ	—	少
	ナシヒメシンクイ	—	やや少
	ハダニ類	—	並
ブドウ	さび病	並	並
	褐斑病	並	並
	べと病	—	やや少
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	やや遅	やや少

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	— — —	やや多 やや多 やや少
トマト	疫病 葉かび病	やや遅 —	少 やや多
ダイコン	軟腐病	—	やや多
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	並
野菜共通	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	— — 並	やや多 やや多 並
キク	ハダニ類	やや遅	やや少

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)、穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 本田での葉いもちの初発生時期は平年 (6月第5半旬) 並の6月第4半旬で、その後の病勢進展は平年並であったが、7月第5半旬に急速に病勢が進展した。

イ. 7月24～25日の巡回調査によると、県内全域の葉いもちの発生圃場率は32.6%と平年 (43.8%) よりやや低かったものの、発生程度「中」以上の発生圃場率は北部地帯が13.3% (平年: 3.4%)、中部地帯が16.7% (平年: 8.7%) とともに平年より高かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされている。不安定な大気の状態でにわか雨などが続く病勢が進展する可能性がある。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では病勢の進展が速いので、早期発見に努める。

イ. 葉いもちが多発するなどして穂いもちの多発が予想される場合は、液剤または粉剤による出穂直前及び穂首出揃期の2回防除に加えて、傾穂期の散布を行う。

ウ. 平成26年度病虫害発生予察注意報第2号 (イネいもち病) を参照。

(2) 紋枯病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. イネの茎数は全般的に平年並である。

イ. 7月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は5.6%で平年(26.0%)より低かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24～25日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(4) 穂枯れ(ごま葉枯病菌による穂枯れ:早生種、中生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～25日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は10.1%で平年(13.9%)よりやや低かった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

(5) ニカメイガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年(0頭)並であった。

イ. 7月24～25日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(6) セジロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、8頭で平年(101.5頭)より少なかった。

イ. 7月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は15.7%で平年(55.2%)より低く、すくい取り(20回振り)調査による成幼虫数は1.0頭で平年(38.4頭)より少なかった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

(7) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、0頭で平年(0.2頭)並であった。

イ. 7月24～25日の巡回調査において、平年同様に発生を認めなかった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

(8) イチモンジセセリ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～25日の巡回調査によると、発生は認められず、平年(発生圃場率9.3%)より低かった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

(9) コブノメイガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～25日の巡回調査によると、発生は認められず、平年(発生圃場率44.2%)より低かった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

(10) カメムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月22日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)によると、アカスジカスミカメの成虫数は63.0頭で平年(166.7頭)より少なかった。

イ. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は1,202頭で平年(416.5頭)より多かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を抑制する条件となる。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は144頭で、平年（224.1頭）よりやや少なかった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年（97.4頭）より少なかった。

イ. 7月17日の巡回調査によると発生圃場率は0%で平年（4.7%）より低かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は25頭で、平年（62.7頭）より少なかった。

イ. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は24.3%で平年（45.8%）

より低かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は27.0%で平年(30.1%)並であった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は本虫の増殖を助長する条件となる。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は44.5%で平年(43.3%)並の発生であった。

イ. 7月17日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(2.0%)並であった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は1.0%で平年(31.4%)より低かった。

イ. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は42.9%で平年(47.5%)並であった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生をやや抑制する条件となる。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(3.8%)より低かった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月25日の県予察圃場での発病葉率は85.2%で、平年(49.4%)より高かった。

イ. 7月23~24日の巡回調査によると、発生圃場率は83.3%で平年(68.8%)よりやや高かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を抑制する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月25日の県予察圃場での発病葉率は48.3%で、平年(15.9%)より多かった。

イ. 7月23~24日の巡回調査によると、発生圃場率は75.0%で平年(45.4%)より高かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を抑制する条件となる。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25日の県予察圃場での発病葉率は0%で平年(8.1%)より低かった。

イ. 7月23~24日の巡回調査によると、発生圃場率は16.7%で平年(60.6%)より低かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水

量は平年並とされおり、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月25日の県予察圃場では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(1.0%)よりやや低かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を抑制する条件となる。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月25日の県予察圃場での発病葉率は0%で、平年(3.4%)より低かった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(14.9%)よりやや高かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生をやや助長する条件となる。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年(34.0%)よりやや高かった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が40.0%で平年(47.2%)よりやや低かった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は126頭で平年（46.5頭）より多かった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が60.0%（平年：20.9%）、キュウリでは42.9%（平年：24.8%）でともに平年より高かったものの、発生程度は低かった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生をやや抑制する条件となる。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での発生量は平年並であった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は144頭で、平年（224.1頭）よりやや少なかった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生を認めなかった。

ウ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

4 花き類

(キク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（17.4%）より低かった。

イ. 7月24日の季節予報によると、8月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、気温が高い場合は発生を助長する条件となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。